

Index

骨・軟部腫瘍

レジメン名	レジメンシート
Denosumab療法（RANMARK）	シート
Eribulin単独療法	シート
Pazopanib療法	シート
PTX weekly療法	シート
ドキソルビシン（ADR）単独療法	シート

対象： 骨巨細胞腫

レジメン名： **Denosumab療法（RANMARK）**

コース目

患者ID：	#REF!
患者氏名：	#REF!

身長(cm)	体重(kg)	体表面積(m ²)	年齢(歳)	性別
#REF!	#REF!	#REF!	#REF!	#REF!

投与スケジュール： 120mgを第1日，第8日，第15日，第29日，その後は4週間に1回，皮下投与する。

《 注 意 》

- ※ 投与開始前に、可能な限り口腔内、抜歯予定等がないか確認すること。
- ※ 定期的に血清カルシウム等の電解質濃度を測定すること。
- ※ ルアーロックシリンジ、27Gの注射針の使用が推奨。
- ※ 投与前に室温に戻した後、使用すること。
- ※ grade3～4の副作用が発現した場合、grade1以下に回復するまで休薬を考慮すること。
- ※ 細胞障害性の少ない薬剤のため、皮下注施行者は限定しない。

《 使用 薬 剤 》

デノスマブ：ランマーク（120mg/1.7mL/V）

《 投 与 量 》

薬 剤 名	標準投与量	計算値	投与量(mg)	投与日
ランマーク	120 mg/body	120		1,8,15,29(以降4週に1回)

《 タイムスケジュール：開始時刻 》

※記載している時刻は例です。当日の投与予定時刻ではありませんのでご注意ください。

Day1； 1月1日(土)

0時00分 ① ランマーク 0mg

上腕、大腿、腹部に皮下注射

※皮下注射のみに使用。

注射針が血管内に刺入していないか確認すること。

REFERENCE

David Thomas,Robert Henshaw,Keith Skubitz,Sant Chawla,et al:Lancet Oncol 2010;11:275-80

Denosumab in patients with giant-cell tumour of bone:an open-label,phase 2 study

2018年4月度化学療法プロトコール審査委員会承認：2018年4月9日

対象： 血管肉腫(進行・再発) 1st line

レジメン名： PTX weekly療法

	コース目
--	------

患者ID：	#REF!
患者氏名：	#REF!

身長(cm)	体重(kg)	体表面積(m ²)	年齢(歳)	性別	アルコールアレルギー
#REF!	#REF!	#REF!	#REF!	#REF!	

※必ず無しを確認

投与スケジュール：	1 コース 49日（連続6週間投与、2週間休薬）
使用基準：	開始時；class B、2回目以降；class C

《 使用 薬 剤 》

パクリタキセル（PTX）：パクリタキセル（1V：30mg/5mL，100mg/16.7mL）

《 投 与 量 》

薬 剤 名	標準投与量	計算値	投与量(mg)	投与日
パクリタキセル	100 mg/m ²	#REF!		1,8,15,22,29,36

《 タイムスケジュール：開始時刻 》

※記載している時刻は例です。当日の投与予定時刻ではありませんのでご注意ください。

Day1,15；	1月1日(土)	1月8日(土)	1月15日(土)
	1月22日(土)	1月29日(土)	2月5日(土)
0時00分	内服	レスタミンコーワ（10mg）5 T	点滴直前に内服
0時00分	①	生理食塩液 50mL + ファモチジン 1A + デキサート 6.6mg 1V	
		※デキサート初回は6.6mg、2回目以降は3.3mg（1.65mg×2A）可、半量ずつ1.65mg×0.5Aまで減量可	
		15 分で点滴静注	
0時15分	②	生理食塩液 100mL	
		30 分で点滴静注	
0時45分	③	生理食塩液 250mL + パクリタキセル	0mg 0.00mL
		1 時間で点滴静注	
		0.22μ以下のフィルター一体型輸液セットを使用する	
1時45分	④	生理食塩液 50mL	
		フラッシュ	

REFERENCE

Nicolas Penel, Binh Nguyen Bui, Jacques-Olivier Bay, Didier Cupissol, Isabelle Ray-Coquard et al J Clin Oncol 26 Vol 26 : 5269-5274,2008
Phase II Trial of weekly Paclitaxel for Unresectable Angiosarcoma : The ANGIOTAX Study
2012年6月度化学療法プロトコル委員会承認：2012年6月11日

対象： 軟部肉腫（進行・再発） 1st Line
レジメン名： **ドキソルビン（ADR）単独療法**

	コース目
--	------

患者ID：	#REF!
患者氏名：	#REF!

身長(cm)	体重(kg)	体表面積(m ²)	年齢(歳)	性別
#REF!	#REF!	#REF!	#REF!	#REF!

投与スケジュール：	1 コース 2 1 日間
使用基準：	class A （次回以降 class B）

《 注 意 》

原則、ドキソルビン **総投与量は 5 0 0 mg/m²以内**とする。
投与前～投与中の心機能異常に要注意。

《 使用 薬 剤 》

ドキソルビン（ADM）：（ドキソルビン）10mg・50mg/V

《 投 与 量 》

薬 剤 名	標準投与量	計算値	投与量(mg)	投与日
ドキソルビン	75 mg/m ²	#REF!		1

《 タイムスケジュール：開始時刻 》

※記載している時刻は例です。当日の投与予定時刻ではありませんのでご注意ください。

Day1；	1月1日(土)	
0時00分	内服	アプレピタントカプセル 125mg 1 × (1) ドキソルビン開始 1 時間前頃
0時45分	①	生理食塩液 50mL + グラニセトロン 1A + デキサート 6.6mg 15 分で点滴静注
1時00分	②	生理食塩液 50mL + ドキソルビン 0mg 10 分以内で点滴静注（全開） ※血管炎、静脈炎に注意！
1時10分	③	生理食塩液 250mL（ドキソルビン終了後直ちに） 20 分以内で点滴静注（全開）

Day2～3；	1月2日(日)	～	1月3日(月)
	内服		アプレピタントカプセル(80mg) 1 カプセル 1 × (2) 起床時
	内服		デカドロン(0.5mg) 16錠 2 × (2) 朝・昼食後

REFERENCE

OS Neilsen, P Dombernowsky, H Mouridsen, et al：British Journal of Cancer (1998) 78(12), 1634-1639
High-dose epirubicin is not an alternative to standard-dose doxorubicin in the treatment of advenced soft tissue sarcomas. A study of the EORTC soft tissue and bone sarcoma group.
2010年12月度化学療法プロトコール審査委員会承認：2010年12月13日

対象： 悪性軟部腫瘍（進行・再発）

レジメン名： **Pazopanib療法**

	コース目
--	------

患者 I D：	#REF!
患者氏名：	#REF!

身長(cm)	体重(kg)	体表面積(m ²)	年齢(歳)	性別
#REF!	#REF!	#REF!	#REF!	#REF!

投与スケジュール：	通常、成人にはパゾパニブとして1日1回800mgを食事の1時間以上前又は食後2時間以降に経口投与する。なお、患者の状態により適宜減量する。
-----------	---

《 注 意 》

悪性軟部腫瘍

適正使用ガイドに準じる

本剤の化学療法未治療例における有効性及び安全性は確立していない。

臨床試験に組み入れられた患者の病理組織型等について、臨床成績の内容を熟知し、本剤の有効性及び安全性を十分理解した上で、適応患者の選択を行うこと。

PS:0または1、SBP≦140orDBP<90、好中球数≧1,500/ μ L、Plt≧100,000、Hb≧9.0g/dL

PT-INR≦1.2×ULN、APTT≦1.2×ULN、T-Bil≦1.5×ULN、ALT,AST≦ULN×2.5、Scr≦1.5mg/dL

蛋白尿=0or尿蛋白≦0.15g/24hr、TSH・fT4・fT3が正常、12誘導心電図が正常、LVEF≧50%

※ 肝障害に注意し、定期的な検査を実施し、異常時(**T-Bil>1.5×ULN時は200mg/day**)は減量・休薬等考慮すること

※ 高血圧に注意し、降圧剤の投与など適切な処置を行うこと

※ 心機能障害に注意し、定期的にLVEF評価を行うこと

※ QT間隔延長、心室性不整脈に注意し、定期的に心電図検査および電解質測定を行うこと

《 使用 薬 剤 》

パゾパニブ：ヴォトリエント錠200mg

薬 剤 名	標準投与量	計算値	投与量(mg)	投与日
ヴォトリエント	通常投与量	800.0		連日

《 タイムスケジュール：開始時刻 》

内服	ヴォエトリエント	0mg	1日1回 空腹時連日内服 (食前1時間、食後2時間は避ける)
----	----------	-----	-----------------------------------

REFERENCE

Winette T A van, Jean-Yves Blay, Sant P Chawla, et al: Lancet 2012;379:1879-86

Pazopanib for metastatic soft-tissue sarcoma(PALETTE):a randomised, double-blind, placebo-controlled phase 3 trial

化学療法プロトコル迅速審査承認：2015年5月7日

対象： 悪性軟部腫瘍 進行・再発 2nd Line以降

レジメン名： **Eribulin単独療法**

コース目

患者 I D：	#REF!
患者氏名：	#REF!

身長(cm)	体重(kg)	体表面積(m ²)	年齢(歳)	性別	アルコールアレルギー
#REF!	#REF!	#REF!	#REF!	#REF!	

※必ず無しを確認

投与スケジュール：	1 コース 2 1 日間
使用基準：	class A (day8 class C)

《 注 意 》

- ※投与開始前に肝機能の状態を把握し、肝機能検査（AST,ALTなど）を行うこと
- ※QT延長があらわれたとの報告があるので、投与開始前に心電図検査及び電解質検査を行い心機能の状態を把握する事
- ※本剤の化学療法未治療例における有効性及び安全性は確立していない。
- ※適正使用ガイドに準じること。
- ※アルコールアレルギーの有無について確認すること。

《 使用 薬 剤 》

エリブリン：エリブリン注 1mg／2mL／V

《 投 与 量 》

薬 剤 名	標準投与量	計算値	投与量(mg)	投与日
エリブリン	1.4 mg/m ²	#REF!		1,8

《 タイムスケジュール：開始時刻 》

※記載している時刻は例です。当日の投与予定時刻ではありませんのでご注意ください。

Day1,8;	1月1日(土)	1月8日(土)
0時00分	① 生理食塩液 50mL + グラニセトロン 1 A + デキサート 3.3mg 15 分で点滴静注	
0時15分	② 生理食塩液 50mL + エリブリン 0.0mg 0.00mL 5 分で点滴静注（全開）	
0時20分	③ 生理食塩液 50mL フラッシュ	

REFERENCE

Patrick Schoffski,Sant Chawla,Robert G Maki, et al. Lancet 2016;387:1629-37
Eribulin versus dacarbazine in previously treated patients with advanced liposarcoma or leiomyosarcoma:a randomised, open-label, multicentre, phase 3 trial
2016年12月度化学療法プロトコル審査委員会承認：2016年12月12日